

数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)

令和5年度 自己点検・評価報告書

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」については、数理・データサイエンス教育推進委員会が主体となり、リテラシーレベルのモデルカリキュラムの学修内容を学ぶために、3つの授業科目による教育プログラムとして、令和4年度入学生から履修させている。

当該プログラムの運用にあたり、大学の内部質保証のプロセスに合わせて自己点検評価を行い、その結果を以下に報告する。

なお、点検評価は、各授業科目の授業評価アンケート(以下、「授業アンケート」という)、教育プログラム全体のアンケート(以下、「全体アンケート」という)の結果、及び各授業科目の成績評価等を参考に行っている。

自己点検・評価の視点	点検結果
<p>学内からの視点</p> <p>プログラムの履修・修得状況</p>	<p>数理・データサイエンス・AI教育推進委員会において、当該プログラムの履修・修得状況の分析を実施しており、今年度の状況は以下のとおりである。また、学内授業支援システム(LMS)の活用により、受講者毎の講義演習進捗状況や課題への回答状況を把握できるようにしている。</p> <p>【総合情報学部】 今年度より「統計学」が必修となり、当該プログラムに該当する3つの科目は必修科目としてカリキュラム配当された。したがって、当該プログラムに該当する科目は100%の履修率となった。今年度に3科目全てを合格した(当該プログラムを合格した)学生の割合は88%となり、昨年度の学生の割合81%と比較して向上が見られた。【評価:A】</p> <p>【看護学部】 当該プログラムに該当する3つの科目全てが必修科目であるため、当該プログラムの履修率は100%である。このうち、今年度に3科目全てを合格した学生の割合は99%となり、昨年度の学生の割合が94%と比較して向上が見られた。【評価:A】</p>
<p>学修成果</p>	<p>当該プログラムの履修学生に対して、意欲、興味、関心、理解度等を把握する独自アンケートを実施し、数理・データサイエンス・AI教育推進委員会において分析し、当該プログラムの評価・改善に活用している。</p> <p>その中の「授業の内容は理解できましたか?」という設問に対し、各学部の回答は次のとおりであり、概ねプログラム全体の内容の理解度は高いと思われる。</p> <p>【総合情報学部】 a. 情報社会とAI 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、75%であった。「③どちらともいえない」を含めると91%であった。 b. 情報リテラシー演習 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、85%であった。「③どちらともいえない」を含めると99%であった。 c. 統計学 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、77%であった。「③どちらともいえない」を含めると93%であった。 全ての科目において、「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、昨年より上回っている。 【評価:B】</p> <p>【看護学部】 a. 情報社会とAI 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、63%であった。「③どちらともいえない」を含めると90%であった。 b. 情報リテラシー演習 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、62%であった。「③どちらともいえない」を含めると88%であった。 c. 統計学 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、65%であった。「③どちらともいえない」を含めると92%であった。 全ての科目において、「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、昨年度より上回っている。 【評価:B】</p>

自己点検・評価の視点	点検結果
<p>学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度</p>	<p>FD委員会において実施している授業アンケートの集計結果のうち「学生の授業の取り組みについて（知識、技術の修得度）」の項目を分析することによって、各授業科目の授業内容の理解度を把握できるようにしている。その結果を、当該プログラムの評価・改善に活用している。各学部の回答は次のとおりであり、概ね各授業科目の内容の理解度は高いと思われる。</p> <p>【総合情報学部】 当該プログラムに該当する3科目の授業アンケートの「知識、技術の修得度」の平均値は「4.26」であり、3科目とも4ポイント台であったので、授業科目個別にみても理解度は高いと考えられる。</p> <p>【看護学部】 当該プログラムに該当する3科目の授業アンケートの「知識、技術の修得度」の平均値は、「4.23」であり、3科目とも4ポイント台であったので、授業科目個別にみても理解度は高いと考えられる。今年度の「知識、技術の修得度」の平均値は、それぞれ昨年度を上回っている。</p> <p>【評価：A】</p>
<p>全学的な履修者数、履修率 向上に向けた計画</p>	<p>【総合情報学部】 今年度より「統計学」が必修科目に改正され、当該プログラムを構成する3科目全てが必修科目となり、全学生が履修している。【評価：A】</p> <p>【看護学部】 当該プログラムを構成する3つの授業科目は全て必修科目であるため、学部学生全員が履修している。【評価：A】</p>
<p>学外からの視点</p>	
<p>教育プログラム修了学生の 必要性</p>	<p>当該プログラムが開設されたのが、令和4年度であり、まだ卒業生は社会に出ていない状況である。そのため、まだ、本項目については評価できないが、今後、卒業時には可能な範囲で進路等の評価は実施する予定である。民間企業に対して企業調査を実施、当該プログラムを修了した卒業生における採用状況や企業評価を把握する仕組みを設けていく予定である。なお、昨年度に引き続き、本学に求人のある企業にご協力をいただき、当該プログラムを修了した学生が就職することについての期待度を調査した結果、高い評価を得られている。【評価：B】</p>
<p>教育プログラムの内容にお ける意見等</p>	<p>数理・データサイエンス・AI教育推進委員会が中心となって、当該プログラム修了者の卒業後の調査を実施し、その後の進路や活動状況について調査していく予定である。また、当該プログラム修了者の就職先へのヒアリングを通して、当該プログラムへの企業の評価を把握する仕組みを整備していく予定である。なお、昨年度に引き続き、本学に求人のある企業にご協力をいただき、当該プログラムについてアンケート調査を行い、概ね高い評価を得られている。【評価：B】</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを 「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」 を理解させること</p>	<p>当該プログラムを構成する科目「情報社会とAI」においては、モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分（社会におけるデータ・AI利活用）に準じた内容を展開し、時事やトレンドなど社会での実例をもとにAI等がどのような活用をされているかを中心に興味・関心を促す講義内容としている。また、「統計学」では、データリテラシー（データを読む、データを説明する）、「情報リテラシー演習」では、データリテラシー（データを扱う）を具体的な実例を取り上げ講義している。講義を終えて実施した当該プログラム独自アンケートの中の「AI・データサイエンスに対する興味・関心が高まりましたか？」という設問に対し、各学部の回答は次のとおりであった。</p> <p>【総合情報学部】 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、74%であった。「③どちらともいえない」を含めると92%であった。</p> <p>【看護学部】 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、57%であった。「③どちらともいえない」を含めると83%であった。</p> <p>両学部とも、昨年度と同様の評価となり、さらなる改善をしていく必要がある。 【評価：B】</p>

自己点検・評価の視点	点検結果
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	当該プログラム全体の理解度、及び各授業科目の理解度については、アンケートの結果をみると高いポイントではあったが、理解できていない(不合格となった)学生もいることが窺えるため、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しをおこなった。総合情報学部は、依然として不合格者が一定の範囲ででており、更なる検討が必要である。一方、看護学部は、不合格者は1名となり、今年度の見直しが活かされている。【評価:B】
点検評価結果に基づく課題及び改善策等	当該プログラムの履修については、総合情報学部の今年度のカリキュラム改正に合わせて、全学生が履修することになった。今年度は昨年度の検討結果を受けて見直しをおこない、一定の成果がでていたことは確認できた。但し、その半面、全学生に興味・関心を持たせ、理解度を上げるためには、授業の実施方法等に、一層の工夫が必要である。
根拠資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度 リテラシーレベル授業科目の履修率・合格率 ・令和5年度 リテラシーレベル授業科目の成績評価内訳 ・令和5年度授業評価アンケートの結果による理解度の確認 ・数理・データサイエンス・AI教育プログラムのアンケート集計結果(総合情報1年・看護1年) ・数理・データサイエンス・AI教育プログラムの企業調査結果

点検結果に基づき、次の四段階の評価レベルで評価を行った。

【評価レベル】

- A:『優れた点』があり、十分行われている。
- B:概ね行われており、相応である。
- C:改善の必要があり。
- N:現時点で評価できていない。